



KYOJO CUP
Round 2



全4戦で行われる今シーズンのKYOJO CUPは今回が第2戦。まず日曜日朝の予選では5年ぶりに参戦した#44 RSS vita平川真子が1'59.777でポールポジションの座を獲得。フロントローに並ぶのは1'59.860で#114 RSS VITA 翁長実希。3番手には1'59.896で#17 Team M VITA 三浦愛。4番手には#86 Dr.DRY VITA 永井歩夢、5番手#337 D.D.R VITA-01 斎藤愛未、6番手#87おさきにどうぞ☆VITA 山本龍といった順になっている。決勝が始まる昼過ぎには、気温・路温ともかなり上がってきている中でスタートが切られた。好ダッシュを見せた#114翁長がTGRコーナーで#44平川に並びかけるが、ここは#44平川が押さえた。オープニングラップは上位4台はそのままのポジションに戻ってきたが、5番手には#87 山本が上がり中段グループは順位が目まぐるしく順位が変わっている。2周目にコントロールラインを最初に超えたのは#44平川だがここで#17三浦が2番手に。4番手には#337斎藤が上がっている。そしてその週のTGRコーナーでは#17三浦がアウトから#44平川をかわしてトップに立つ。その後もトップ3台はコンマ差のバトルを繰り返す。4周目のダンロップコーナーでは#114翁長が#44平川をかわして2番手に上がってきた。折り返しの6周目にはトップ3台は

0.8~0.9秒差で少しずつ離れてきたように見えたが、後半に入り8周目には#114翁長が今回のファステストラップをたたき出す猛追を見せ、コカ・コーラコーナーでは#114翁長が前にできるものの#17三浦がまた奪い返す。そして一旦はこの2台に置いて行かれたかのように見えた#44平川もラスト2周からこのふたたびこのバトルに加わり、ラストラップでは1コーナーからアドバンコーナーの入り口まで、まさに何度も3台並びのバトルを繰り返す大接戦。12週の決勝レースは0.078秒差でトップでチェッカーを受けたのは#17三浦、2位には#114翁長、その後ろ0.1秒差で#44平川がチェッカーを受けた。4位には#337斎藤、5位には前回開幕戦が4輪レース初参加でポールポジションを獲得した、若年17歳のKTMS VITA 富下李央菜が予選7位から上がってきた。これで#17三浦は開幕から2連勝。今シーズン折り返してポイントリーダーを守っているが、この接戦は後半戦も目が離せない。レース終了後、#17三浦のコメント「ストレートが伸びるセッティングで狙い通りに上手くいきました。今シーズンからタイヤも変わってまだ乗りにくい部分もあったのですが、今回チームに皆でマシンのことをいろいろ考えてセットしました。今までの経験が生きて勝てたのだと思います」と語った。



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト KYOJO

Rank No.	Name
1	17 三浦愛
2	114 翁長実希
3	44 平川真子
4	337 斎藤愛未
5	225 富下 李央菜
6	36 岩岡万梨恵

ROADSTER CUP
1.5/1.6/1.8/2.0
Round 2



全4戦で行われる今シーズンのロードスターカップ、今回は後半戦に入る第3戦が行われた、今回は5クラス35台がエントリー。土曜日朝の予選では前半から目まぐるしく変わるトップ争いが続き、4周目に2'06.413のタイムをたたき出した1.5opクラス#23 ASM JOY WM愛染ND5 山本謙吾がポールポジションの座を手にした。フロントローには2.0オープンクラスの#77 NDSエンジニアリング 長岡哲也が2'07.155でコースレコードを更新しクラストップからのスタート。1.8クラストップは総合7番手で#8 RDY Moty's アクレNB8 関野大志の2'09.134。1.6クラストップは総合14番手で#27 SVI☆佐藤商会ロードスター 野木強2'11.053。1.5chクラスでは総合19番手の#155 CR55Profロードスター松原泰世2'14.454という決勝スタート順となった。土曜日最初の決勝レースとなるロードスターカップは、予定通りに10:25にスタートが切られると好スタートを見せた#77長岡がトップでTGRコーナーに飛び込んでいく。#23山本も背後にぴったりと付き各コーナーでは何度も並びかける接戦、総合トップ争いの後ろでは総合3位、クラス2番手争いのバトルも繰り広げられている。3周目には#23山本が先にコントロールラインを超えるものの4周目には#77長岡はポジションを奪いかえず、その後も両者ファステストラップを更新しながら周回を重ねるが8周の決勝は#77長岡が総合優勝となった。総合2番手の#23山本が1.5opクラス優勝。1.8クラスも激しいトップ争いの中、

0.2秒差で#8関野がクラス3番手グリッドから追いつけてきた#15 おやぢRヒデキ選暦!NB8μ中村英貴を振り切って優勝。1.6クラスは2番手から4周目にトップに立った#34 Winmax内藤板金AKCNA6 竹田幸一郎がそのまま優勝。1.5chクラスも激しいトップ争いの末にクラス4番手グリッドから徐々に追いつけてきた#28 cp和光三差製作所ロードスター 石塚崇宣が最終ラップのチェッカー手間で#155松原と並び0.2秒差で先にチェッカーを受け優勝した。各クラスがそれぞれ激しいトップ争い繰り広げられた。各クラス優勝ドライバーコメント。総合・2.0op #77長岡「2台しか居ないのがちょっと寂しいけど。マシンはあるのだからもう少し出てきてくれないかな?と。昨年エンジンを乗せ換えて慣らしも終わり、マシンは今一番良い状態でした」1.5op #23山本「マシンの調子も良く、前半はクラス違いですがトップ争いも出来ました。それにしても暑かったです」1.8 #8関野「後の二人がじわじわと迫ってくる中で初優勝出来ました。昨年から支えてくれた皆に大変感謝をしています」1.6 #34竹田「スタートでは離されましたが、チャンスを見つけて4周目のTGRコーナーに前に出られました。野木さんともフレッシュマン時代から一緒にやっているの気持ちも知れているし、安心してできるバトルは楽しいです」1.5ch #28石塚「2戦負け越している松原さんに追いつけて前に出たのが嬉しいです!」と語った。



RESULT リザルト 1.5 Open

Rank No.	Name
1	23 山本 謙悟
2	20 佐藤 文昭
3	10 国分 務
4	7 茂木 文明
5	14 小倉 徹
6	30 間瀬 大我



RESULT リザルト 1.5 Challenge

Rank No.	Name
1	28 石塚 崇宣
2	155 松原 泰世
3	63 小野 佳寿美
4	24 近藤 順
5	153 桂 涼
6	50 田中 悠太



RESULT リザルト 1.6

Rank No.	Name
1	34 竹田 幸一郎
2	27 野木 強



RESULT リザルト 1.8

Rank No.	Name
1	8 関野 大志
2	15 中村 英貴
3	91 神谷 誠
4	2 渡邊 達也
5	84 大矢 明夫
6	11 松浦 健



RESULT リザルト 2.0 Open

Rank No.	Name
1	77 長岡 哲也
2	101 高橋 裕史

FCR-VITA/MEC 120
Round 2



全4戦で戦われるVitaとv.Granzが混走して行われる120分の耐久レース。開幕戦は7月に鈴鹿サーキットで開催され、今回は第2戦。11月の岡山国際サーキット、12月のモビリティリゾートもてぎで開催される。VitaはFCR-Vita第2戦とも併催、今回のエントリーは52台とフルグリッドとなり、内訳はV.Granzが16台、Vitaが36台になっている。120分の耐久は2~3名のドライバーがエントリーをすることが出来、Vitaはアマチュアドライバーのみのama・amaクラスと、プロドライバーとアマチュアドライバーが組むPro・amaクラスに分かれている。土曜日に20分間行われた予選でv.Granzの#71 ZENKAIRACING ABBEY ハヤシヒロキ/木村偉織/岡田衛 組が1'50.448でポールポジションを獲得。フロントローには#6 岡部システムHFRP ABBEY 岡部隆志/大崎達也が1'50.454で並ぶ。Vitaクラスの最速タイムは東と西のチャンピオン経験ドライバーが組んだama・ama#1 DAISHIN★Progrex ★萬雲塾 大八木龍一郎/徳升広平組の1'58.851。2番手タイムはama・ama #51 BRM VITA 伊藤毅/渡会太一 1'59.448といった結果になった。決勝レースはローリングスタートで切られ2時間の耐久がスタートした。スタートでは各マシングリッド順の綺麗な隊列のまま1コーナーに進入。オープニング

ラップをトップで戻って来たのは#12 BRM v.Granz 杉本/三島組。3周目には予選5番手の#7 nonno pizza with ab Carmine/岸本組がトップに立つ。スタートから30分を過ぎた頃から徐々にルーティーンのピットに入るマシンがはじめてきた。その後はピットインのタイミングで順位の変動はあるが開始から1時間の時点でトップに立ったのが#31 G-TEC OOKA /佐藤組。後半ではピットのタイミングで順位が代わることもあったものの#31がレースを引っ張る形で周回を重ねていく。残り15分を切ったところでコース内の落下物排除のためにSCが入り、そのまま120分の耐久レースはチェッカーとなった。Vitaではさすがに安定した走りで#1が優勝。また、Vita pro-ama クラスでは#337 D.D.R VITA-01 斎藤/坪井組が優勝した。決勝後の優勝ドライバーコメント v.Granz #31「OOKA:レースを始めて2年目で初優勝です。気持ち良く走ることが出来ました。佐藤:トップでバトンを受けた時にはとても緊張しました。」 Vita ama-ama#1「大八木:お互いにミスもなくチームオーダー通りにすべて上手く来ました。徳升:全戦優勝目指して頑張ります。」Vita pro-ama「坪井:とても楽しかったです。夫婦二人で同じレースに出られることも少ないので楽しく走ってその上に優勝出来て本当に嬉しいです」と語った。



RESULT リザルト v.Granz

Rank No.	Name
1	31 OOKA 佐藤 公哉
2	9 関正俊 河村 直樹
3	12 杉本 雄作 三島 優輝
4	59 いむらせいじ 成瀬 茂喜
5	37 野上 達也 野上 敏彦 大谷 飛雄
6	41 青合 正博 植田 正幸



RESULT リザルト VITA Pro-Ama

Rank No.	Name
1	337 斎藤 愛未 坪井 翔
2	16 中川 徹 奥本 隼士
3	2 萬雲 恒明 阪口 良平
4	114 翁長 実希 三浦 愛
5	50 TOSHIHIRO 荒川 麟
6	48 中澤 卓也 武藤 英紀



RESULT リザルト VITA Ama-Ama

Rank No.	Name
1	1 大八木 龍一郎 徳升 広平
2	860 猪爪 奈杏 永井 歩夢
3	87 山本 龍 大竹 将光
4	880 MAKOTO 吉田 綜一郎
5	51 伊藤 毅 渡会 太一
6	15 佐藤 元春 鶴田 哲平

N1500/N1400/N1000

Audi A1 Fun Cup

Round 2



全3戦で行われるこのカテゴリーは今回が第2戦の重要な折り返し。土曜日朝の予選時には青空が広がってはいるものの、雲もやや多めといった天候の中で行われた。総合トップタイムでポールポジションを決めたのは、コースレコードを更新したBeetle Fun Cup#16 Freeem VW Fun Cup 齊藤浩徳で2'11.595。N1400は総合2番手のフロントローからのスタートを決めた#3 フジツボステートオートED82 山田大輔2'12.046。Audi A1Fun Cupは#110 Bulls RCIT A1 近藤匠2'16.629。N1000は#48 RSかなやエンドレスヴィッツ河合宏太2'23.260がそれぞれクラストップからのスタートとなった。決勝では予選の時よりも雲の厚みが増してはきているものの、ドライコンディションで行われた。スタートはトップを#16斎藤が守り、その後ろではN1400 #3山田も2番手でTGRコーナーに進入、その背後に開幕戦ウィナーの#21 DLμ NUTECスターレットの大竹直がぴったりと付きチャンスを伺う。3周目にはBeetle#斎藤をかわして#3山田と#21大竹が総合1・2番手に。その後5周目のストレートでコントロールラインを0.07秒差で#21大竹が前に出た。その後も激しいトップ争いは続いたが、10週の決勝を制したのは#21大竹だった。2位には#3山田。N1000クラスも2台ながら終始激しい争いが続き、オープニ

ングラップで前に出た#54 フランケンズヴィッツ 半田健一郎、7周目には#48河合がトップを取り戻すがその背後にぴったりと付く#54半田、各コーナーやストレートで何度も並ぶ2台。最終ラップのパナソニックコーナーから2台並んでストレートに入り、0.048秒差で先にチェッカーを受けたのは#54半田だった。Audi ではスタート直後から#110 近藤と#114 Ano Family Racing A1 阿野雄紀のトップ争い、その後ろでは3番手争いが続き、トップの2台と少しずつ離れていく。7周目に#114阿野が前に出て、そのままチェッカーを受けた。各クラス優勝ドライバーのコメントN1400 #21大竹「山田さんが速かった!なんとか抜かすことができました」N1000 #54 半田「大変でした。ストレートでは河合さんの方が速いので、ここしかないかと思ってダンロップで何とか前に出られました」Audi A1 #114 阿野「前に出てからは淡々とミスをしないように落ち着いて走れました」Beetle #16 齊藤「今回初めてドライ路面で走れたのは良かったです。マシンの特性でウェットだとかなりピーキーで飛んでいかにしないようにするのが大変なんです。N1400クラスとも並んで走れたし、まだこれからのカテゴリーですので、良かったかなと思っています」



RESULT リザルト N1400

Rank No.	Name
1	21 大竹 直
2	3 山田 大輔
3	2 小野田 篤士
4	5 水谷 明彦
5	26 サイトウ カズミ
6	59 加藤 隆始



RESULT リザルト N1000

Rank No.	Name
1	54 半田 健一郎
2	48 河合 宏太



RESULT リザルト Audi A1 Fun Cup

Rank No.	Name
1	114 阿野 雄紀
2	110 近藤 匠
3	105 森 花海
4	113 並木 重和
5	108 野田 望
6	104 飯島 宗久

86&BRZ
FUJI 86BRZ Challenge Cup
Round 2



全4戦で行われる今シーズンの86&BRZ/FUJI 86BRZチャレンジカップは今回が第2戦。日曜日朝の予選はドライコンディションの中で行われ、総合トップタイムを出したのは、JP-2Rのコースレコードを更新した#99 パワークラブBLITZ86たしろじゅんで1'58.683。2番手にはJP-2Sクラスの#16 HMRスポーツカー専門店BRZ ISHIKEN 2'00.561。3番手には同じクラスの#700 UME700×YMS GR86 梅原雄一2'01.165。4番手に86&BRZクラストップの#312 埼玉自動車大学校MS86 松本晴彦2'01.661。5番手に同じクラスの#54 86Racer'sBRIDE86 田畑勇2'03.166。JP-3Sクラスではクラストップからのスタートが総合10番手で#72 アバンテ・atc86 堀ジュンジ2'04.556。JP-4Sクラスは総合17番手の#904 PGK小川R BANDOH86青柳貴明2'07.911といったグリッド順に決まった。全車がグリッドに付いた11:20頃には雲も減って快晴となり、気温もかなり上がってきている。その中でスタートが切られ、TGRコーナーへは綺麗な隊列で進入していく。オープニングラップをトップで戻って来た#99たしろはそのまま後続車を引き離す体制に入るが、その後ろで

はJP-2Sと86&BRZクラスの激しいトップ争いという展開になってきた。どちらのクラスも何度も並びかけるが、トップの座はなかなか揺るがずに周回を重ねるもレース終盤になると徐々にタイム差は開いてきた。10週の決勝は後続に9秒の大差をつけて#99たしろがポールトゥウィンで決めた。JP-2Sクラスは#16 ISHIKENが逃げ切りそのまま優勝。86/BRZクラスも#312松本がポジションを守り優勝。JP-3Sクラスではトップからスタートの#72堀がマシントラブルでピットインを余儀なくされクラス2番手からスタートの#33 HC RACING 86A 川原悠生が優勝。JP-4Sクラスは#904青柳がそのまま優勝した。86&BRZクラス優勝の#312松本は「大変でした！田畑さんと着いたり離れたりしていましたしバックマーカーに引かかってコース外しちゃったり。今回は特に参加台数が少なくてちょっと寂しかったですが、勝てて良かったです」と話し、JP-2Sクラストップの#16 ISHIKENは「とても楽しかったです！梅原さんとはお互いにマシンの速い所が違うセッティングなのですが、とても良いバトルができて、その中で勝てて嬉しいです」と語った。



RESULT リザルト 86&BRZ

Rank	No.	Name
1	312	松本 晴彦
2	54	田畑 勇
3	53	森田 幸二郎
4	222	松下 浩平



RESULT リザルト
Fuji 86BRZ Challenge Cup 2S

Rank	No.	Name
1	16	ISHIKEN
2	700	梅原雄一
3	35	五十嵐剛木
4	241	鈴木貴大
5	3	小野明則



RESULT リザルト
Fuji 86BRZ Challenge Cup 3S

Rank	No.	Name
1	33	川原悠生
2	43	常盤岳史
3	34	大田優希
4	726	勝又臣楠
5	28	鈴木康史
6	616	伊東康宏



RESULT リザルト
Fuji 86BRZ Challenge Cup 4S

Rank	No.	Name
1	904	青柳 貴明
2	17	吉成公一
3	184	SAITO KYOU

LOTUS CUP JAPAN 2023

Round 1 & 2



Round 1

今シーズンのロータスカップはここ富士スピードウェイで開幕戦と第2戦が行われた。第3・4戦は10月にスポーツランドSUGO、最終戦となる第5戦は11月にモビリティリゾートもてぎで開催され、全5戦で競われる。今回はClass1が5台に賞典外だが0-1の1台、Class2も同じく5台に賞典外の0-2が1台の12名のエントリーで戦われた。日曜日の午前中に第1戦のグリッドを決める予選が行われ、ポールからのスタートを決めたのはClass1 #37 HC-RACING LOTUS東京EXIGE 太田優希1'55.695。フロントローにはClass0-1 SYNTIUM LCI EXIGE S佐藤孝洋1'55.918でコースレコードを更新した。Class2では総合6番手で#15 LOUTUS横浜ELISE w/Bluesy 荒田良浩2'00.162。総合7番手にはClass0-2 #21 LCI ELISE 220 桂伸一が2'00.410でつく。開幕第1戦の決勝スタートで前に出た#2 佐藤がトップでTGRコーナー進入、その後#22 LOVELY LIFE EXIGE 東浩平のバトルでオープニングラップは、

#2佐藤、#33東、#37太田順で戻って来た。2周目の1コーナーで#37太田が#33東をパスし2番手に戻る。その後はトップ#2佐藤との差を縮めにかかるものの、終盤では徐々にその差も開き10週の決勝は#2佐藤トップチェッカーを受けた。CLASS1優勝は#37太田、2位に#22東、3位は前半のバトルもポジションを守りきった#33 HC-RACING LOTUS東京EXIGE佐野順平という結果。CLASS2では#15荒田を追う#15桂だったがその差なかなか縮まらずに#15荒田が逃げ切った。決勝レース終了後、総合・CLASS1優勝の#37太田は「クラスは違いますが、打倒！佐藤さんでのぞみました。でもスタート失敗して行かれちゃったので次の第2戦ではリベンジ目指します」と話し、Class2優勝の#15荒田は「とにかく暑かった！皆様ジェントルマンなドライバーなので、安心して走ることができました。今日はもう一戦ありますが、この暑さが大変ですね」と語った。



RESULT リザルト Class 1

Rank No.	Name
1	37 太田 優希
2	22 東 浩平
3	33 佐野 順平
4	38 佐原 弘恭
5	99 村山 聡一



RESULT リザルト Class 2

Rank No.	Name
1	15 荒田 良浩
2	3 高橋 基夫
3	20 大槻 征久
4	36 今野 智

Round 2

今回のFCR第3戦最後に行われたLOUTUS CUP JAPAN 第2戦。グリッドは先ほど行われた第1戦の結果がそのままの順でスタートが切られる。スタートではトップを守る#2 佐藤にクラス違いだが#37太田も背後に着ける。その後ろでは5番手グリッドから好スタートでオープニングラップ3位でストレートに戻って来たのは#38 PISTA Acm EXIGE 佐原弘恭。#33 佐野と#22東という開幕戦表彰台メンバーとバトルを見せる。その後はトップ2台がそれぞれ差を広げる中で3番手争いがレース中盤まで繰り広げられたが、4周目に#33佐野が3番手に上がり、後ろの2台を引き離しにかかる。5周目には#38佐原の隙をついて#22東が4番手に上がりそのままの順位で10週の決勝が終了した。Class2ではスタート直後には#15荒田と#21桂の激しい

トップ争い。オープニングラップでは#21桂が前にでている。その後は徐々にタイムを開きつつ周回を重ねるが、終盤にさしかかった7周目には0.2秒差にまで#15荒田が詰めてきた。8周目のTGRコーナーで#15荒田が前にでてそのままクラス優勝となった。レース終了後優勝ドライバーコメントClass1 #37太田「スタートまたしても失敗！練習します！ その後はオーバーステアとの戦いでした。2戦とも勝てたことは嬉しいですが、まだまだ勉強しなければならないことが沢山ありますね」と語り、Class2 #15荒田「スタートは桂さんにやられちゃいました。でも後半で後ろにつくことが出来てなんとかTGRコーナーで前に出ることができました。一日に2戦は大変でしたが、2勝できてとても嬉しいです」と語った。



RESULT リザルト Class 1

Rank No.	Name
1	37 太田 優希
2	33 佐野 順平
3	38 佐原 弘恭
4	99 村山 聡一
5	22 東 浩平



RESULT リザルト Class 2

Rank No.	Name
1	15 荒田 良浩
2	20 大槻 征久
3	3 高橋 基夫
4	36 今野 智

Inter Proto Series
Round 3 & 4
Gentleman Driver



IPSジェントルマンクラス第3戦の予選でポールポジションはIPS Eクラス#55 人馬一体ドライビングアカデミー 川田浩史1'47.342で初めてのポールポジション。フロントローには#44 NAVAL 山口達雄が1'47.546で並ぶはずだったが、#44山口がマシントラブルでピットスタートとなってしまふ。IPS Gクラスでは#7 J-POINT 勝又隆二が1'48.133でトップ。SUPRAでは#45 NTP SUPRA GR4橋本達宏が1'48.098でクラストップからのスタート。スタートでは#55川田がトップでTGRコーナーに、その背後には#32NETZ NOVEL MIE 永井秀貴がぴったりとつき、3番手には#7勝又というポジション。#55川田と#32永井がコマ差の激しいトップ争いを繰り広げる中で、ピットスタートの#44山口は3周目には総合7番手まで追上げる猛追を魅せる。IPS Gクラスではトップの#7勝又から少し離れたところでの激しい2番手争いに#44山口が加わった4台のバトルが周回ごとに行われた。SUPRAでは#45橋本が#39 卜部との差が2秒ほどで周回を重ね、後半に入る6周目には#32永井がトップに立つが8周目のストレートで#55川田が奪い返すといった激しいバトルが続き、第3戦をコマ差で制したのは#55川田だった。2位には#32永井、総合3位・Gクラス優勝は#7勝又。SUPRAは#45橋本という結果になった。レース終了後の優勝ドライバーコメント。総合・Eクラス#55川田「とても長く感じた12周でした。ちょっとした隙に永井さんに前にでられてしまいました。必死に食らいつきました。タイヤもきつかったし12周ずっと接戦というのも初めてだったとしても良い経験をさせていただきました」Gクラス#7勝又「前も後ろも離れてしまっていたのでコンスタントに走れました。マシンは少しシフトが入りにくくらいであとは調子良かったです」SUPRA #45 橋本「片岡さんといろいろセッティングを話し合っただけでメカニックに方々がとても良いマシンを作ってくれました。皆様のおかげで勝つことができたと感謝しています」と語った。

Round 3



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト IPS-E

Rank No.	Name
1	55 川田 浩史
2	32 永井 秀貴
3	44 山口 達雄
4	8 斎藤 愛未



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト IPS-G

Rank No.	Name
1	7 勝又 隆二
2	37 植田 正幸
3	96 末長 一範
4	71 大山 正芳
5	16 渡邊 久和
6	88 八木 常治



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト SUPRA

Rank No.	Name
1	45 橋本 達宏
2	39 卜部 治久
3	72 近藤 保
4	38 豊島 豊
5	31 兼重 和生

ジェントルマンクラス第4戦決勝は日曜日に行われた。土曜日の予選セカンドタイムでグリッドが決まっており、ポールポジションはIPS Eクラス#32 NETZ NOVEL MIE永井秀貴1'47.641。Gクラスでは#7 J-POINT 勝又隆二が1'48.493でトップ。SUPRAでは、#45 NTP SUPRA GT4 橋本達宏1'48.260となった。決勝では#32永井が好スタートを決めトップで1コーナーに。第3戦と逆の展開で追う#55川田という順になったが、#32永井はファステストを更新しながら徐々に差を広げていき12週の決勝をトップでチェッカーを受けた。各クラスの優勝ドライバーのコメントは。IPS E、総合#32永井「昨日のリベンジができました!!。なに

よりもスタッフのみんなが悔しがるって昨夜遅くまでセットを試し、もっと曲がるセッティングに。さらに昨日より暑くなりそうだったので、タイヤの内圧も考えて攻められるマシンに仕上げてくれました。みんなに感謝です」IPS G#7勝又「前のEクラスについていこうと決めていましたが、最初だけで離されてしまいました。後は淡々とミスの無いように走りました」SUPRA 卜部「今日のレースは盆と正月が一緒にやってきたようです!今シーズンから新車になってまだセットアップの途中。まだまだ試してみることもたくさんあります。この後にProクラスに出る息子のために運を残しておかなきゃね」と語った。

Round 4



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト IPS-E

Rank No.	Name
1	32 永井 秀貴
2	55 川田 浩史
3	44 山口 達雄
4	8 斎藤 愛未



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト IPS-G

Rank No.	Name
1	7 勝又 隆二
2	37 植田 正幸
3	96 末長 一範
4	71 大山 正芳
5	16 渡邊 久和
6	88 八木 常治



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト SUPRA

Rank No.	Name
1	39 卜部 治久
2	45 橋本 達宏
3	72 近藤 保
4	31 兼重 和生
5	38 豊島 豊

Inter Proto Seris
Round 3 & 4
Professional Driver



IPS Proクラス第3-4戦は土曜日に第3戦グリッドを決める予選が行われ、トップタイムを出したのがIPS #44 NAVUL 山下健太1'45.629。フロントローには#55 人馬一体ドライビングアカデミー 宮田莉朋の1'45.719。3番手は#3 INGING MOTORSPORT 阪口晴南1'45.729。SUPRAでは#38 TR SUPRA 坪井翔1'46.245。2番手には#39 P.MU.RACING SUPRA 卜部和久1'46.653になった。日曜日に行われた第3戦決勝のスタートは予選順位どおりの綺麗な隊列でTGRコーナーに消えていく。逃げる#44山下の後ろでは2番手争いが接戦となり、オープニングラップのダンロップコーナーで#3 阪口が2番手に。その後も4台の2番手争いが続き、その隙に#44山下は逃げるというレース展開。SUPRAでも逃げる#38坪井の後ろでは#39卜部と#45 NTP SUPRA GT4片岡龍也のバトルが続き、9週の第3戦決勝は#44 山下、#3阪口、#55宮田の順、SUPRAは#38坪井、#39卜部、#45片岡の順でチェッカーとなった。続く第4戦では#44

山下がトップを守る後ろでオープニングラップから熾烈3番手争いが続く。ダンロップコーナーでは、#7 J-POINT 野尻智紀がポジションを一つ上げ3番手、その後6周目のパナソニックコーナー立ち上がりで#3阪口と並び、ストレートで#7野尻が前に出た。9週の決勝は#44山下、#7野尻、#3阪口の順でチェッカー。SUPRAは第3戦と同じく#38坪井の後ろで#39卜部と#45片岡のバトルが終始続いたが、#38坪井、#39卜部、#45片岡の順でチェッカーとなった。レース終了後IPS #44山下は「今シーズンはマシンのウイングも大きくなったので、開幕戦が終わってからチームといろいろ試してみたのが上手くなりました。今年初めての勝利でとても嬉しいですし、この良い流れを次につなげたいです」SUPRA #38坪井「ドライ路面だったら調子良かったので、今回はイケるかな?とっていました。雨だと遅くなってしまうのでウェットのテストがしたいですね。昨日のVita耐久も優勝出来て今日も勝てとても良い週末になりました」と語った。



RESULT リザルト IPS

Rank No.	Name
1	44 山下 健太
2	3 阪口 晴南
3	55 宮田 莉朋
4	7 野尻 智紀
5	37 福住 仁嶺
6	16 Ronnie QUINTARELLI



RESULT リザルト SUPRA

Rank No.	Name
1	38 坪井 翔
2	39 卜部 和久
3	45 片岡 龍也
4	31 石浦 宏明
5	72 阪口 良平



RESULT リザルト IPS

Rank No.	Name
1	44 山下 健太
2	7 野尻 智紀
3	3 阪口 晴南
4	55 宮田 莉朋
5	37 福住 仁嶺
6	16 Ronnie QUINTARELLI



RESULT リザルト SUPRA

Rank No.	Name
1	38 坪井 翔
2	39 卜部 和久
3	45 片岡 龍也
4	31 石浦 宏明
5	72 阪口 良平